

平成25年度事業計画書

(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(はじめに)

『子供の時代に子供らしい体験を重ねること、四季折々の変化を体で感じながら心を耕していくことは、人間が成長していく上で欠かせない貴重な財産であるに違いない』

との財団設立の理念の基に「子ども自然体験塾」を実施し、早7年を経過しましたが、都市化や少子化などが進む中で、子ども達をとりまく問題は一層複雑・多様化してきています。

このような環境にあつて、当財団への期待は益々高まるものと思われまますので、今年も引き続き、北海道の豊かな自然と文化を生かした自然体験学習事業として、「子ども自然体験塾」を実施します。

子供たちの「自力（みずからりよく）を育む」ことを主眼とし、自然との共生の大切さを学びながら科学的に物事を考える態度を育てます。実施にあたっては、外部講師等の協力を得、又、子供たちの健全育成に寄与するため創設された「子どもゆめ基金」からの助成を受けることとします。

1、定款第4条第1項第1号に掲げる事業を次の計画により実施する。

(1) 自然体験学習事業（公益目的事業1）

ア、活動名

① 「子ども自然体験塾」 青山慎一先生の『昆虫』不思議発見！（昆虫塾）

(活動のねらい)

身のまわりの虫たちの演じる多彩なドラマや珍奇な生態、不思議な習性の観察をとおして、生命の素晴らしさ、自然の素晴らしさを深い感動と共に味わうことにより豊かな感性を育みます。又、自然界における昆虫の果たしている役割や進化の過程を学ぶことにより科学的に物事を考える態度を育てます。

○塾長 青山慎一先生（蝶類愛好家・日本鱗翅学会）

○講師・指導者 外部 7名、財団 3名

○募集人員 子供 30名×2回＝延べ60名

○実施日 7月7日・7月28日

○参加費 1,000円

○具体的なプログラムと主なポイント

・昆虫、観察・採集

自然林周辺や水源地（沼と川と森）と異なる環境には、どんな虫たちが生息しているのかを観察・採集をとおして自然界の昆虫の役割や特性について学びます。

・青山慎一先生のお話「昆虫の自然界における役割」

青山慎一先生の個人コレクション（世界の蝶・甲虫類）10万

頭のうち厳選数百頭を観察しながら、進化の過程で身につけた特性や自然

界の不思議な仕組みについて学びます。

・昆虫標本作成

標本(蝶・クワガタムシ)作成の実習をとおして、採集時のマナーや採集方法、保存法について学びます。

②「子ども自然体験塾」鈴木哲夫館長の『地球』不思議発見！(地球塾)

(活動のねらい)

海底火山噴出物の産状を観察することにより、ダイナミックな地殻変動の不思議さに気づかせます。また、大江鉱山周辺の地層を観察すると共に岩石や鉱物を採取し、その鑑定方法の学習をとおして鉱物資源の環境に及ぼす影響や生活との結びつきについて学び、科学的に物事を考える態度を育てます。

○塾長 鈴木哲夫館長(山の手博物館・当財団理事)

○講師・指導者 外部 5名、アルバイト 2名、財団 5名

○募集人員 子供 28名×2回=延べ56名

○実施日 8月25日・9月1日

○具体的なプログラムと主なポイント

・岩石、鉱石の観察・採取

海底火山噴出物の産状を観察し、旧鉱山での鉱石採取を体験させながら地球の地殻変動の不思議さを実感させます。

・鉱物資源・環境と生活についての学習

鈴木哲夫館長の「鉱物資源・環境と生活について」お話をとおして、鉱物資源の環境に及ぼす影響や生活との結びつきについて学び、科学的に物事を考える態度を育てます。

・採取した鉱石の鑑定

旧鉱山で採取した鉱石・鉱物の鑑定方法について学びます。

③「子ども自然体験塾」横山武彦先生の『野幌の森』不思議発見！(植物塾)

*前年は、『植物』

(活動のねらい)

身近な日常生活の中での自然とのかかわりについて、植物の生き残り戦略の観察をとおし、森が育む自然環境や植物の果たしている役割を学び、「自然との共生」の大切さを子供たちと共に考えます。又、この活動をとおして、豊かな感性を育み、生命のつながりやいろいろな不思議に気づかせ、科学的に物事を育てる態度を育てます。

○塾長 横山武彦先生(北海道自然観察協議会)

○講師・指導者 外部 10名、財団 3名

○募集人員 子供 20名×2回=延べ40名

大人 10名×2回=延べ20名

○実施日 8月18日・9月29日

○参加費 1,000円

○具体的なプログラムと主なポイント

・野幌の森の自然観察

森のつくり、動植物の観察から不思議な仕組みを発見し、夏と秋の森の違いや植物の春への準備の観察をとおして、いのちのつながりについて考えます。

・年輪学習や二酸化炭素量調べとひっつきむしの標本作成

植物の生長の仕組みを年輪から学び、二酸化炭素と植物の生長、森の果たす役割について考え、「ひっつきむし」の観察や標本作成をとおして、植物の繁殖の作戦について学習します。

・見つけた不思議の発表と気づき

見つけた不思議の発表や気づきにより自然の仕組みの巧みさを学び、科学的な探求へ誘います。

④「子ども自然体験塾」佐藤和利元館長の

『オホーツクの海と山』in紋別（オホーツク塾）

(活動のねらい)

オホーツクの豊かな海と触れ合いながらの学習や、かつて富をもたらした金山での生活体験やオホーツクの先人（アイヌ）の知恵を体験することにより、自然からの恩恵を最大限に生かしながら厳しい自然とどう向き合って生活をしてきたのかを学び、自然との共生の大切さを子ども達と共に考えます。又、合宿体験をすることにより社会性、協調性や自立心を育み、人間同士の助け合いや思いやりを大切にする自力（みずからりよく）を向上させます。

○塾長 佐藤和利元館長（考古学者・紋別市立博物館）

○講師・指導者 外部 14名、財団 2名

○募集人員 子供 32名

○実施日 8月1日～8月4日（3泊4日）

○参加費 18,500円（札幌発着）

○具体的なプログラムと主なポイント

・先人の生活体験と昔の仕事体験

火起こし等の古代の生活体験、金の選鉱、脱穀等昔の道具を使った仕事体験や砂金の採取体験をとおして、自然からの恩恵を生かした昔の生活について学習します。

・オホーツクの魚学習と地引網体験

海底から魚を観察したり、海浜での地引網体験により、オホーツク海特有の生き物との触れ合いにより、豊かな環境を守る大切さを学習します。

・合宿体験と日記指導

初めて会った子ども達が集団生活をする事により、規律を守ることや仲

間と助け合うことの大切さを体験させ、自分のことは自分でする自力（みずからりよく）の向上を目指します。又、毎日日記をつけさせ、文章を書く大切さを身につけさせます。

イ、事業費	<u>3,790,085 円</u>
〔収入〕	<u>3,259,000 円</u>
参加費	680,000 円
助成金（子どもゆめ基金）	2,579,000 円（申請額）
(財団実質負担金)	531,085 円)

ウ、助成金応募先（申請中）
 子どもゆめ基金（独立行政法人国立青少年教育振興機構）

エ、名義後援（予定）
 札幌市・札幌市教育委員会
 紋別市・紋別市教育委員会（オホーツク塾のみ）

オ、募集範囲 札幌市内及び周辺市町村

カ、募集対象 日帰り型 小学3年生から6年生
 合宿型 小学4年生から6年生

キ、募集方法 札幌市内小学校、児童館及び当別町小学校へチラシ配布